

參考資料

參考資料

地区別まちづくりの方向（試案）

地域ビジョン策定の参考となるよう、地区別まちづくりの方向（試案）として、行政から見た各地区の地域資源や機能分担を踏まえた望ましい役割、発展すべき方向などを示しています。

●地区設定の考え方

ゆめづくり地域予算制度との整合を図るため、地域づくりの単位を次の14地区とします。



●地域ビジョンの策定と総合計画等への反映

地域ビジョンは、地区ごとの地理的な特性や自然、産業、歴史・文化などの地域資源、市全体のなかでその地区が担う役割などを踏まえながら、住民が主体となって、地域づくりの理念、地区の将来像、地域づくりの基本方針などを取りまとめて策定するものです。

各地区で地域ビジョンが策定されたときは、その策定状況に応じ、全市的な調整を行ったうえで、総合計画の地区別計画として位置づけることとし、計画の必要な見直しを行うとともに、可能な限り部門別の行政計画や施策に反映します。

名張地区

本地区は、古くから市の中心市街地としての役割を果たしてきた名張地区既成市街地と新しい市街地として位置づけられる、鴻之台地区と中央西土地区画整理事業施行区域で構成されています。このため、それぞれの地区の特性に応じて、適切な機能分担のもとに本市の中心市街地にふさわしい都市機能の整備・向上や魅力的な都市空間の形成を図ります。

名張地区既成市街地は、近年、高齢化や人口減少、産業の空洞化が進み、活力が低下してきていますが、初瀬街道や名張藤堂家邸、江戸川乱歩生誕地などの豊富な歴史・文化資源のネットワーク化やまち並みの修景など、文化の薫りを生かした生活環境の整備や集客交流に、地域住民をはじめ商工業者、市民団体等との協働・連携により取り組めます。また、地域の伝統文化を保

存活用するとともに、地域を取り囲むように流れる名張川についても、潤いとやすらぎを与える重要な地域資源として、地域づくりの活動と連携しながら保全・活用を図ります。さらに、高齢者など誰もが安全に活動できるようバリアフリーのまちづくりを進めます。

名張駅周辺については、名張市のイメージを印象づけるまちの顔にふさわしいシンボル性の高い都市空間を創造し、多様な人々が集う交流拠点として機能の充実を図ります。

新しい市街地を形成する鴻之台地区と中央西土地区画整理事業施行区域については、広域的な行政・業務・情報交流の拠点として、また、緑あふれる都市型居住空間として、計画的なまちづくりを進めます。

蔵持地区

本地区は、市の中央部に位置しており、美しい田園風景に囲まれた農村集落と良好な住宅地を形成している緑が丘のほか、産業の拠点である蔵持工業団地や三ッ池工業団地、小売店舗や飲食店が建ち並ぶ国道の沿道など、多くの要素を併せ持つ地区です。また、国道165号線と国道368号線が交差する本市の交通の要衝でもあります。

こうした、さまざまな性格を併せ持つという地域特性や、市の中央部に位置するという地理的特性を生かした計画的なまちづくりを進め、多様な人々がふれあう交流拠点としての機能の充実を図ります。また、名張川右岸で整備が進んでいる河川防災ステーションやスポーツふれあいプラザなど

の公共施設についても、本地区の拠点性を生かし効果的な活用を図ります。

地域内に広がる農村集落については、一部で農業基盤整備が進められていますが、交通の利便性や地理的特性を生かし、消費者との交流などによる都市型農業の取り組みを進めるとともに、生活環境の整備に努めます。

緑が丘は、計画的に整備された住宅地ですが、開発から約30年が経過しています。良好な居住環境の保全を図るとともに、地域緑化等景観形成の活動を地区住民が主体となって進めるなど、住宅地としての魅力づくりと新しい地域個性の創造に取り組めます。

梅が丘地区

本地区は、計画的に整備された大規模な住宅地とその周辺に広がる農村集落で構成されています。名張川を挟み中心市街地につながっており、農村集落の周囲には緑豊かな里山や山林が広がっています。

梅が丘地区については、地域の個性を生かした緑化活動など身近なまちづくりに取り組み、良好な居住環境の保全に努めるとともに、地区内の公共施設や未利用の公共用地などの有効活用を住民主体の地域づくりの取り組みと連携しながら進めます。

また、高齢化社会に対応する自家用車に頼らない中心市街地等への交通対策についても、まちづくりの取り組みと連携しながら

ら検討を進めます。

農業については、比較的優良な営農環境が保全されていることから、水田農業の振興を図るとともに、梅が丘地区住民をはじめ消費者との交流を基本とした新しい都市型農業の取り組みを進めます。また、農村の生活環境の整備・充実を図り、農地を取り囲むように広がる山林と合せ、美しい緑の環境として、また防災等の多面的な機能も含めその保全・活用を図ります。

地区内を流れる名張川についても、防災面の配慮をしながら、住民の憩いの場として、美しい景観の形成や親水性を高める取り組みを進めます。

薦原地区

本地区は、古くから開けた農村集落のほか、新しい住宅団地のさつき台と大規模な工場が立地する八幡工業団地から構成されています。また、新しく整備された国道368号により伊賀市（予定）からの北の玄関口にあたるとともに、名張川などを通じて奈良県側の山添村等とも古くから交流があります。

名張川や小波田川沿いに広がる農地や農村集落では、水田農業の振興を図るとともに、生活環境の整備に努めます。また、農地を取り囲むように広がる山林や、地区内を流れる名張川や小波田川を、薦生の川原

の桜に代表されるような市民が身近に自然にふれ親しむことのできる環境として、さらに、防災等の多面的な機能も含めて保全・活用を図ります。

さつき台については、良好な居住環境の保全に努めるとともに、身近なまちづくりを進めるなど、住宅地としての魅力づくりに取り組みます。

また、県道奈良名張線や県道山添桔梗が丘線の整備を促進し、隣接する山添村との交流を深めるとともに、名張川の下流域にあたる月ヶ瀬村や南山城村についても川を通じた交流・連携を進めます。

美旗地区

本地区は、市内最大の農産物供給地である農業集落地のなかに美旗駅周辺などに開発された中規模の住宅地が点在するという特性を有しています。近鉄大阪線や国道165号線により、本市の東の玄関口にあたり、古くから北と東を接する伊賀市（予定）と深い結びつきを持った地区でもあります。

農業集落地については、優良農地が集積しているという地区の特性を生かして、水田農業の振興とブドウなどの特産物の振興を図り、高生産型農業を推進するとともに、地域資源を生かしながら生活環境の整備を進めます。

地区内には、美旗古墳群や初瀬街道の街並み、新田水路、観阿弥創座の地などの歴史・文化遺産が点在しており、それらを結

ぶ歴史・文化遺産のネットワークを形成するとともに、美しい田園風景や地域の特性を生かした新たな農業の展開を図るなど、潤いと活力のあるまちづくりに住民の地域づくりの活動と連携して取り組みます。

各住宅地については、豊かな田園風景と調和する良好な居住環境の保全と向上に努めるとともに、地域の魅力づくりに取り組みます。

美旗駅の周辺については、地区内道路のネットワーク化等によりアクセスの改善を図るなど、幅広い市民が利用する鉄道駅として、利便性等機能の充実を図ります。また、桔梗が丘地区や市域を越えた伊賀市との連携をさらに推進していくことで、広がりのある生活圏の創造を目指します。

比奈知地区

本地区は、古くからの農業集落地と新しく開発された富貴ヶ丘住宅地で構成されています。また、名張川やひなち湖、東山など水と緑の美しい自然に恵まれています。

こうした豊かな自然を生かした市民の交流・レクリエーション拠点として位置づけ、その施設整備等を進めます。また、農業集落地では身近な自然との共生を地域づくりを基本としながら、地区内の富貴ヶ丘の住民をはじめ多様な地域との交流を積極的に進めるとともに、集落地の生活環境の整備・向上を図ります。

富貴ヶ丘地区については、その一部で入居開始から約30年を経過し、まちの老朽化が懸念されることから、地域住民が主体となって、地域の緑化活動など身近なまちづくりに取り組むとともに、地区施設の計画的な更新を図るなど、良好な居住環境の整備・向上に努めます。

滝之原工業団地については、地元雇用につながる早期の企業立地に努めます。また、広域農道を通した伊賀市南部地区との交流と連携を進めます。

すずらん台地区

本地区は、計画的に整備された大規模な住宅地で、地区の東側が伊賀市（予定）に接しています。また、入居が始まって20年以上が経過していますが、鉄道駅や中心市街地から離れていることなどから、入居率が60%に達していない状況となっています。

住民の日常生活の利便性を高めるため、特に美旗駅や桔梗が丘地区へのアクセスについてそれぞれ美旗地区、桔梗が丘地区の

まちづくりと連携して、機能の向上を図ります。

また、緑に包まれた閑静な生活環境を生かしながら、地域住民が主体となって、緑化活動など身近なまちづくりに取り組むとともに、計画的な地区施設の再整備を進めるなど、住宅地としての魅力づくりと新しい地域個性を創造し、市内外に発信する取り組みを進めます。

つつじが丘地区

本地区は、つつじが丘住宅地と春日丘住宅地で構成されています。いずれも計画的に整備された大規模な住宅地で、現在、人口が合せて1万1千人を越え、桔梗が丘地区に次ぐ人口規模となっています。

道路整備が進んだことで、名張駅をはじめとする中心市街地へのアクセス機能が向上しましたが、引き続き比奈知地区等の地域づくりの取り組みと連携しながら、住民の日常生活と通勤・通学等の利便性の向上に努めます。

また、地区の南東に接し、緑豊かな中山間集落である国津地区と、公共施設の相互利用や地域づくりの分野をはじめ、さまざまな面で交流・連携を進め、住民の心豊かな暮らしを創造する取り組みを進めます。

地域住民が主体となり、良好な居住環境の一層の向上を図るなど、住宅地としての魅力づくりを進めるとともに、地区内に開校した皇學館大学社会福祉学部等と連携し、高齢社会に対応する地域福祉の分野における先進的な取り組みを進めます。

錦生地区

本地区は、主として宇陀川沿いに基盤整備された優良農地と農業集落及び奈良県と接する豊かな森林地帯で構成されています。また、国道165号により名張の西の玄関口としての役割を担うとともに、古来より宇陀川や初瀬街道を通じて奈良県室生村と深い交流の歴史を持っています。

住民の地域づくりの活動や生活環境の整備と連携しながら、関西方面へ向けた名阪国道への新しいアクセスルートをはじめ、地形などを考慮した地区内交通体系の検討を進めます。また、国道165号や宇陀川を通じた室生村をはじめとする奈良県の町村との交流・連携を進めます。

優良な営農環境を生かし、水田農業の振興を図るとともに、赤目滝等への観光客のアクセスルートにあたることから、観光面を取り入れた新しい農業の展開に取り組みます。さらに、黒田庄という地域の歴史や、伝統行事や文化を後世に残していくため、その保存・継承に努めます。

また、茶臼山をはじめとする西側の山林を大切な緑の景観資源として、防災面にも配慮しつつその保全・活用を進めるとともに、宇陀川についても遊歩道など親水空間としての整備を図り、市民の憩いの場としての機能を高めます。

赤目地区

本地区は、本市の観光の中核をなす赤目四十八滝と美しい田園風景の広がる農村集落、新川やすみれが丘などの比較的小規模な住宅地、南部の広大な森林から構成されています。また、近鉄赤目口駅を有し、関西方面からの名張の玄関口ともいえる地区です。

名張市を代表する景勝地であり、シーズンには多くの観光客が訪れる赤目四十八滝は、アクセスルートの整備をはじめ、市民や観光客が気軽に訪れることができるよう、地域づくりの活動と連携しながら情報発信や魅力づくりに取り組みます。

また、多くの人々が利用する赤目口駅周辺

についても、利便性の向上と駅機能の充実を図ります。

住民主体のまちづくりと連携して、生活環境や県道赤目滝線の整備を進めるとともに、赤目滝等の観光と連携した高付加価値型の新しい農業の展開に取り組みます。また、南部の赤目四十八滝周辺の広大な森林についても、その多面的機能を維持できるよう適正管理に努めるとともに、マツタケなどの森林資源の活用を進めます。

初瀬街道や東大寺への松明調進行事など、地域のさまざまな歴史資源や伝統文化等を保存・継承し、後世に残す取り組みを進めます。

箕曲地区

本地区は、名張川と青蓮寺川の合流部周辺から下流の宇陀川との合流部にかけて農地が広がり、農村集落が点在しています。名張駅に近く、国道165号も地区を通過していることから、早くから商業施設などの開発が相次ぎ、国道の沿道にはロードサイドショップが連なるとともに、各地でミニ開発や、マンション・アパート建設が進んでいます。

名張川の両岸は親水性にも配慮した河川改修が進むとともに、道路も整備され、ウォーキングなど市民の憩いの場となっています。青蓮寺ダムの上流には山村集落である中知山地区があり、その背後には広大な森林が広がっています。

このため、蔵持地区と同様、多様な側面を有するという地域特性や、市の中央部に

位置する利便な地理的特性を生かしながら計画的なまちづくりを進めるとともに、名張中央公園など多様な人々がふれあう交流拠点としての機能の充実を図ります。

また、地区内の各地で既存の農村集落と都市的な住民の混住が進んでいることから、交流を基本に、住民が主体となって調和のあるまちづくりに取り組みます。

地域内に広がる農村集落については、交通の利便性や地理的特性を生かし、農産物を通じた消費者との交流等の都市型農業の取り組みを進めるとともに、生活環境の整備・向上に努めます。

名張川をはじめとする水辺環境の景観形成などに取り組むとともに、森林についてもその多面的機能に配慮しながら保存・活用を進めます。

百合が丘地区

本地区は、計画的に整備された大規模な住宅地とブドウを中心とする観光農業が盛んな青蓮寺地区で構成されています。青蓮寺地区の南部には広大な森林が広がるとともに、青蓮寺湖をはじめその上流部に位置する景勝地の香落溪など自然や観光資源に恵まれています。

百合が丘地区については、地域住民が主体となって、緑豊かな魅力ある居住環境の保全や住宅地としての魅力づくりを進めるとともに、地区内にある市立病院や企業の研修施設を地域の資源として活用するなど、新しい地域個性を創造して発信します。

農業については、ブドウやイチゴなど特

産品の振興を図るとともに、心安らく緑の景観等の特性を生かした体験型農業など、百合が丘住宅地をはじめ市街地住民との交流を促進します。また、地区内の青蓮寺湖や香落溪のほか、赤目四十八滝や市内の他の観光資源と連携し新しい観光ルートの開発など観光振興を進めます。

そのほとんどが自然公園に指定されている南部の広大な森林についても、適正管理や広葉樹林への転換などに努めるとともに、市民参加の森林ボランティアなど市街地との交流による新しい森林管理の仕組みづくりに取り組みます。また、地域の豊かな森林資源を活用した交流を促進します。

国津地区

本地区は、山あいには点在する美しい農山村集落とその背後に抱く広大な森林、名張川上流部の川沿いに広がる農山村集落で構成されています。古くから美杉村太郎生地区や青山町種生地区等との人・物的な交流など密接なつながりを持つ地区でもありません。

中心市街地への交通の不便さ等から人口流出が進行し、少子高齢化と相まって過疎化が極めて深刻な課題となっています。このため、早くから住民が立ち上がり、地域の課題解決に向け積極的な取り組みが行われてきましたが、引き続きこうした住民主導・行政支援型の地域づくりを推進します。農業については、心安らく中山間地の景観等の特性を生かした体験型農業など、新し

い国津型農業の創造に取り組み、市街地住民との交流を促進します。また、獣害対策に取り組むとともに、農村集落の生活環境の整備・向上に努めます。

重要かつ多面的な役割を果たす森林環境の適正管理や広葉樹林への転換などに努めるとともに、市民参加の森林ボランティアなど新しい森林管理の仕組みづくりに取り組みます。はぐくみ工房あららぎを拠点として、地域の豊かな森林資源を活用した体験・学習型の生涯教育の機会を充実するなど、市内外との交流の場づくりを進めます。

名張川（長瀬川）の内水面漁業の振興に努めるとともに、新しい観光開発等への取り組みを進めます。

桔梗が丘地区

本地区は、近鉄桔梗が丘駅を中心にして計画的に整備された大規模な住宅地です。長い年月をかけて段階的に整備されてきており、最初の入居が始まって40年を経過する地域と、現在も入居が進んでいる新しい地域が混在しています。

入居開始から長い年月を経過している地域では少子高齢化の進行や、まちの老朽化・活力低下などの問題が生じていますが、成熟度の高いコミュニティが形成されています。一方、新しい地域では年齢層が若いもののコミュニティの成熟度が低いなど、地域ごとに異なる側面を有しています。

このため、多世代交流のまちづくりを基本に、地域住民が主体となって、地域の緑

化活動など身近なまちづくりに取り組み、良好で緑豊かな居住環境の保全・向上に努めるとともに、地域福祉の充実を図るなど心豊かなコミュニティを創造し、住宅地としての魅力づくりを進めます。

桔梗が丘駅については、住宅都市・名張の第二の顔ともいえ、周辺地区の住民も多く利用する鉄道交通の拠点であることから、魅力ある住宅地の玄関口にふさわしい機能の整備・充実を図ります。

また、住民の多様な価値観に基づく文化や健康づくりといった活動の場をさらに広げていくため、周辺的美旗地区、蔵持地区のまちづくりと連携した取り組みを進めます。

新しい名張市総合計画基本構想（諮問）

名総企第237号

名張市総合計画審議会会長
浦山益郎様

平成16年度からの名張市の総合的かつ計画的な行政運営の基本方針となる新しい名張市総合計画基本構想を策定したいので、名張市総合計画審議会条例第1条に基づき、貴審議会の意見を求めます。

平成15年9月24日

名張市長 亀井利克

新しい名張市総合計画基本構想（答申）

名総審第8号
平成16年2月4日

名張市長 亀井利克様

名張市総合開発審議会
会長 浦山益郎

新しい名張市総合計画基本構想について（答申）

平成15年9月24日付け名総企第237号で諮問のありました、新しい名張市総合計画基本構想について、当審議会で慎重に審議を重ね、別添のとおり取りまとめましたので答申します。

尚、計画の推進にあたっては、当審議会の審議過程及びタウンミーティングなどを通して寄せられた多くの市民の意見を尊重するとともに、特に次の事項に配慮されるよう要請します。

1. 本計画の趣旨や内容をわかりやすい形で積極的に市民に周知するとともに、計画の推進にあたって、広く市民の理解と協力を求めること。
2. 行政の役割の変化を踏まえて、市民をはじめとする多様な主体の参画を求めながら適切な推進体制を整えること、重点的な施策展開に努めること、行政改革を進め堅実な都市経営を行うことなど、時代変化に即応して計画の効果的な実現を図るため適切な対応を行うこと。
3. 計画の進行状況や成果を明らかにし、的確な施策評価などを実施して、計画の適切な進行管理を図ること。
尚、当審議会としても計画の進行状況を点検し、必要に応じて提言を行うこととしたい。

名張市総合計画審議会条例

(設置)

第1条 市長の諮問に応じ、本市の総合的かつ基本的な計画に関する事項について調査及び審議するため、名張市総合計画審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 審議会は、委員二十名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 市の議会議員
- (2) 市の教育委員会委員
- (3) 市の農業委員会委員
- (4) 市の住民で募集に応じた者
- (5) 市内の公共的団体等の代表者
- (6) 知識経験を有する者
- (7) その他市長が必要と認める者

3 委員の任期は、二年とし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第3条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 審議会の会議は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席)

第5条 審議会において必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、企画財政部総合企画室において処理する。

(補則)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会の同意を得て会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(名張市総合開発審議会条例の廃止)

2 名張市総合開発審議会条例(昭和44年名張市条例第2号)は、廃止する。

名張市総合計画審議会委員名簿

	【 氏 名 】	【 職 名 】
会 長	浦山 益郎	三重大学工学部教授
副会長	森本 孝子	名張市教育委員会委員長
委 員	稲沢 克祐	四日市大学総合政策学部助教授
◇	猪原 隆吉	名張市区長会長
◇	岡田かる子	老人クラブ連合会 副会長
◇	釜本 善之	名賀医師会長
◇	亀田 博一	公募委員
◇	川上 聰	川の会・名張（顧問）
◇	櫻井 治男	皇學館大学社会福祉学部教授
◇	清水 旬子	子育てネットワークわいわいねっと 代表
◇	竹田 雅一	青年会議所理事長
◇	辰巳 雄哉	商工会議所会頭
◇	辻本 進	公募委員
◇	中森 久夫	地域づくり委員会（名張地区）
◇	野邊 薫	公募委員
◇	藤島 幸子	名張市議会議員
◇	堀江 順一	名張市農業委員会会長
◇	望月 明子	地域づくり委員会（桔梗が丘）
◇	柳生 大輔	名張市議会議員
◇	山村 博亮	名張市議会議員

新しい名張市総合計画策定経過

年 月	概 要
平成15年 4月	新しい名張市総合計画策定方針決定
平成15年 6月	市民意識調査実施 ・市内在住（2,000人対象）
平成15年 8月	新しい総合計画基本構想素案作成
平成15年 9月 ～10月	地区別説明会（市内14地区） 基本構想（素案）のパブリックコメント実施
平成15年 9月	第1回総合計画審議会 ・新しい総合計画基本構想について諮問
平成15年11月	基本構想（原案）の作成 第2回総合計画審議会の開催 ・基本構想（案）審議 第3回総合計画審議会の開催 ・基本構想（案）審議
平成15年12月	基本計画（素案）の作成 第4回総合計画審議会の開催 ・基本構想（案）審議 タウンミーティング（市役所、桔梗が丘公民館、つつじが丘公民館）
平成16年 1月	基本計画素案のパブリックコメント実施 第5回総合計画審議会の開催 ・基本構想（案）審議 第6回総合計画審議会の開催 ・基本構想（答申案）審議
平成16年 2月	新しい名張市総合計画基本構想（案）について答申
平成16年 3月	「新しい名張市総合計画基本構想」 市議会提案 「新しい名張市総合計画前期基本計画」 〳 「新しい名張市総合計画基本構想」 市議会議決 「新しい名張市総合計画前期基本計画」 〳